

# 「株式会社 姫路シティ FM21」

## 第 57 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成26年9月27日(土曜日) 午後1時30分～午後3時

2. 開催場所 イーグレひめじ4階 セミナー室C

3. 出席状況

1) 委員総数 11名

2) 出席委員数 9名

3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

岩田 稔恵	岩成 孝	大井 義雄	大谷 昭仁
衣笠 愛之	難波 正司	水守 祐一	宮本 節子
柳谷 郁子			

4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

岸田 直美 増田 善孝

5) 会社側出席者氏名

寺尾 雅晴	(専務取締役)	放送局長)
黒田 俊雄	(常務取締役)	営業部長)
小幡 博	(営業企画課)	課長)
小林 寛幸	(放送総務部)	編成制作担当)

4. 議題

1) 事務局より挨拶

- ・ 専務取締役放送局長よりあいさつ

2) 資料説明

- ・ 2014年7月～2014年9月の取り組みについて
- ・ 2014年10月以降の取り組みについて

3) 試聴

- ・ 8月26日(火) GENKI暮らしの情報部 火曜日内  
街角トピックス インターンシップ出演
- ・ 9月1日(月) GENKI暮らしの情報部 月曜日内  
総合防災訓練 生中継レポート

#### 4) 意見交換

- 委員                    スタッフ研究会に番組審議委員も参加したい。防災放送については、FMゲンキのスタッフだけでやり繰りを行うということが大変ということも良くわかる。
- 姫路市等と連携して、人員派遣などを依頼できないのか？また、臨時に社員を勤務させた場合には費用もかかると思うが、費用負担についても働きかけるとよいのではないだろうか。CATVとの連携はあるのか？
- 担当                    従来から問題になっている情報提供については、姫路市との連携がとれしっかりできている。当社からの問い合わせについても、対応して頂いている。市内の情報収集は姫路市を中心に行っていただき、当社は情報の発信に注力していきたい。
- 委員                    災害時にFMゲンキができること、姫路市と協力しないとできないことはあるとおもう。経費的な面でもしっかりと話し合っていたきたい。
- 委員                    FMゲンキが長期的に災害放送を組むときは、姫路市と協議はできているのか？
- 担当                    長期化した場合は、対応して頂きたいという願いはしている。「警報が出たら、終夜放送を行う」ということについては、FMゲンキが自主的に行っている。緊急放送協定では、大水害や大震災など、もっと大きなレベルの災害が発生したときに実施するという事になっている。自主的レベルを超えた部分については、相応の費用負担をお願いしたいと考えている。
- 委員                    防災放送を行う際の負担についても事前に話し合っておく方が、大災害が起こった場合でもスムーズに問題解決ができる。
- 委員                    姫路市は防災放送についての公共性を理解しているのか？
- 担当                    十二分にご理解いただいていると考えている。
- 委員                    であれば、姫路市等からFMゲンキに人を派遣するという事も必要ではないか？
- 担当                    他の放送局の事例では、普段業務を担当していない人が応援で駆けつけても、電話対応ぐらいしかできないようだ。我社は情報発信が最大の役割であるため、アナウンスや機器操作に精通した人材を自前で確保する

必要がある。しかし、姫路市においても「情報発信」を実践するため、防災啓発番組「わが町・元気」で、市職員や消防職員が電話出演している。緊急割り込み装置も防災センターに設置しているため、姫路市の複数職員がラジオ出演に慣れることは大切である。

委員 他局との連携はあるのか？

担当 「日本コミュニティ放送協会」の「近畿地区協議会」において、相互支援協定を結んでいる。県単位の連携としては、ラジオ関西を含めた県内11局が参加する「ラジネットひょうご」にも加入している。より現実的な連携という点では、近隣局である加古川（BAN-BANラジオ）と三木（FMみっきい）の3局での協定を結んでおり、日ごろから情報交換している。相互の人員や番組編成・機材なども把握しており、顔の見える状態である。

委員 神戸のコミュニティ放送局は含まれないのか？

担当 FMわいわい（長田区）とFM MOOV（中央区）については、「ラジネットひょうご」を通じて交流を行っている。「ラジネットひょうご」では、11局が持ち回りで番組を制作し、放送している。

局長 多くのコミュニティ放送局は行政との協定を結んでいる。経費負担まで盛り込んでいるところと、そうでないところがある。FMゲンキと姫路市については、日ごろの情報交換や業務を通じて、当社の状況についても情報提供を行い、理解をいただいている。大規模災害が発生した場合、自家発電装置で電源供給を行う放送を継続させるため、燃料供給のお願いもしている。

委員 FMゲンキは小さな台風でも水害でも、経費負担が増えていくようなイメージがあるが？

局長 日中12時間程度は生放送であるため、プラスαの人件費はさほど大きくない。しかし、深夜・早朝にも放送を行った場合は、追加の経費が必要となる。1-2日であれば影響は少ないが、1週間や2週間と長期化した場合は、経費負担をお願いせざるを得ないとする。日ごろからの災害に備えた想定は必要。FMゲンキも公共性があるため、自助努力で対応できる場合は、頑張っていきたい。

委員 姫路市も播磨中枢拠点都市として、市内だけでなく播磨全体のことを意識していく必要がある。FMゲンキの役割も大きくなるのではないか。

- 局長 役割を担うためには「聞こえる状態」にしないといけないが、中期的に考えると、かなりの経費負担になると想定される。電波が届かない地域が、災害リスクが高い地域であると考えられ、さらに検討が必要である。
- 委員 他局と比較をすると、FMゲンキは行政との連携がうまくいっている。課題は「時代が急速に変化している」ということであり、インターネット対応について、さらにどう高めていくか？という検討が大切。
- 委員 商店街などでもWi-Fiスポットの整備が進んでいくようだ。
- 委員 ラジオ専用機は持っていない。携帯音楽プレイヤーに入っているものがある。
- 担当 最近は何歳でも、ラジオの聴きかたを説明するよりも、パソコンやスマートフォンからの聴きかたを説明する方が理解してもらいやすい。災害時は、ラジオ電波の優位性はこの先も変わらないと思うが、Wi-Fiなどインターネット回線の整備もどんどん進んでくるだろう。おそらく避難所などにもWi-Fiスポットが設置されるようになっていくのではないかな。そうなれば、災害直後はラジオ電波、時間がたてば、インターネット放送が利用されるようになっていくように思える。
- 委員 若い世代はスマートフォンかもしれないが、高齢者はラジオが親しみやすい。ラジオで聴くということもPRしていただきたい。住民においても、災害対策は自分たちの問題であると自覚してもらう必要がある。生き残ると言うことが大切である。
- 委員 ラジオは手回し充電で聴けるので便利でありわかりやすい。
- 委員長 自分で情報を集めるということが大切だが、機器の操作が難しい。
- 委員 自分が使えない時は、近くの若い人に聞けばいいという考え方もある。
- 委員 いち早く、色々な情報をしっかり取り入れることが大切。
- 局長 様々な手段を知っておくことが素早い情報収集に必要なだ。
- 委員 スマートフォンは高いので、携帯電話を使っている。ラジオは安くて聴けるので、普及させる努力をしてほしい。
- 担当 車で聴いている人も多いが、そこはカーラジオやカーナビが主体である。

- 委員 周波数が思い出せない時があるが、79.3で“ななくさ”と覚えることで、合わせることができるようになった。ごろ合わせでのPRも必要ではないか。
- 担当 使わせていただく。
- 委員 新車を購入すると、営業マンがラジオの周波数をあわせてくれる。最初]に合わせてくれると、聴く機会も増えるので、カーディーラー等への説明も必要ではないか？
- 委員 作業中にラジオを聴くことが多い。FMゲンキは他局に比べると真面目で軽く聴けない印象もあるので、すこしくだけた番組もあればよいのではないか？
- 委員 真面目であるほうが差別化できるのではないか？とも考えられる。
- 委員 最近落ち着いてきた印象を受ける。シニア世代なので、落ち着いた路線がよいのではないか？男性パーソナリティや高齢者のパーソナリティを起用できるよう、努力してほしい。
- 担当 経験年数が増えるにしたがって、全体の平均年齢も上昇している。将来を考えると、20代のパーソナリティも今のうちに発掘・育成することが大切。
- 委員 かつては、若い人も高齢者もゆっくりしゃべっていたが、話す速度が徐々に早くなっているのは、世の中の流れといえる。
- 委員 来年は「姫路城マラソン」がある。その後も、姫路城のグランドオープンや中国自動車道のスマートインターチェンジがオープンするなど、動きがある。FMゲンキとしての取り組みは？
- 局長 大きなイベントは、まだ見えてこない部分が多いが、交通規制の告知や大手メディアが取り上げないファンランを取り上げるなど、何らかの形で、地元の放送局らしい関わり方を行いたい。
- 委員 夢前町は置塩城周辺でおもてなしのイベントを考えている。住民みんなで応援したいと思っている。自身も2月に菜の花を満開にさせたいと考えて取り組んでいる。
- 委員 沿道の距離が長くあるため、自治会をあげての応援が必要。

- 委員 交通規制があるため、取材移動ができないと思われる。
- 局長 地域での取り組みは大手メディアでは取り上げられない可能性がある。移動の問題があるので、今後検討をしたい。
- 委員 色々な面で、FMゲンキが活躍できればよい。
- 局長 姫路城のリニューアルについては、コミュニティFMのネットワークを使って、どのような提案ができるか検討を行う。
- 委員 「世界で行きたいお城」というアンケートで姫路城は2位だそうだ。もっと人が来てほしい。姫路城に登る人に制限があるとしても、登るだけが姫路城ではない。もっと人が集まってほしい。
- 委員 マラソンも2万人以上の応募があり、抽選となった。これだけの人が姫路に関心を持ってきている。成功させて、来年も再来年も参加をしてもらいたい。
- 局長 地元放送局として、積極的に取り組みたい。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成26年9月30日

公表内容 審議の概要

公表方法 事務所据え置き、ホームページ (<http://fmgenki.jp>)

自社放送内「FMゲンキからのお知らせ（2014年10月5日午後4時）」

以上